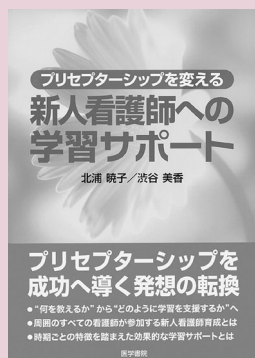


（従来の「業務を教えこむ」方法から「学習サポート」という視点へ）



プリセプターシップを変える 新人看護師への学習サポート

北浦暁子／渋谷美香 著 B5判・116ページ

定価 2310 円(定価 2200 円+税 5 %) ISBN 978-4-260-00367-4 医学書院 2006

評者

西海真理

国立成育医療センター／
小児看護専門看護師

じられる。

「教える」を通して学びあう関係づくり

教える側も教わる側も「つらい」だけ？

今年も新人看護師を迎え入れる季節がやってきた。安全な医療や質の高い看護など、看護師に対する社会の要求は高くなる一方で、病院では早期離職により看護師が定着せず、新人看護師の教育に多大なエネルギーを奪われている。この要因の上位には「看護基礎教育終了時点での能力と、看護現場で求められる能力のギャップ」があげられ、早期離職対策として、新人看護師が「学べる環境」としての病院の研修機能の強化、教育のための人員の配置が必要だと言われている。

現実には、患者の安全を守るため、またできるだけ均質な看護ケアを提供するために、先輩看護師が無理をして教育に時間を割くことのできる期間内に何とか「1人前」になってもらわなくては、という切迫した要求がある。「患者の安全を守ること」「質の高い看護ケアを効率よく提供すること」と「新人看護師が学習の主体となつてのびのびと学ぶこと」は両立させにくい。実際に他職種の採用職員への指導をみても、看護師の教育ほど殺伐としたものはない。看護師の新人教育は、業務のコピーやトレースとしてのトレーニングが中心であるだけでなく、どうも「経験がほんの数年違うだけの同じ道を行く仲間を支援している」という親密さが欠けているように感

本書は、新人看護師が「基本的信頼関係」に裏うちされた人間関係の中で、周囲に存在を認められつつ学ぶことの重要性を説く。ただ「ほめる」のをよしとするのではなく、そのかわりがなぜ教育的態度として推奨されるのか、根底にある「育てる視点」を明示し、理論に基づいた平易な言葉で具体的に解説している。また、時期ごとに直面する課題とそれに応じた支援行動が示されており、プリセプティを脅かすものや戸惑い、プリセプターの感じる重責や焦りを多角的に理解する手がかりとすることもできる。

プリセプターにとっても、「教える」ことを通して看護を伝える言葉を探し、何冊もの本を繙いたり、自分の経験と照らし合わせ、その意味を再び見出す過程で自分の看護を発展・深化させていく学びがあり、プリセプターシップは相互に「学びあう」過程であると述べる。このように書籍全体が、「できることから始める」「学びあうプリセプターシップ」といったポジティブなメッセージで貫かれており、著者らの教育に対する信念がうかがえる。

本書はプリセプターの指導教本ではなく、また現行の指導への単なる反駁でもなく、前向きで柔軟な「人を育てる」ことへの提案であり、その入門書である。春からプリセプターの役割をとる人のみでなく、プリセプターシップを支える管理者や周囲のスタッフにもぜひ手にとってもらいたい1冊である。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。